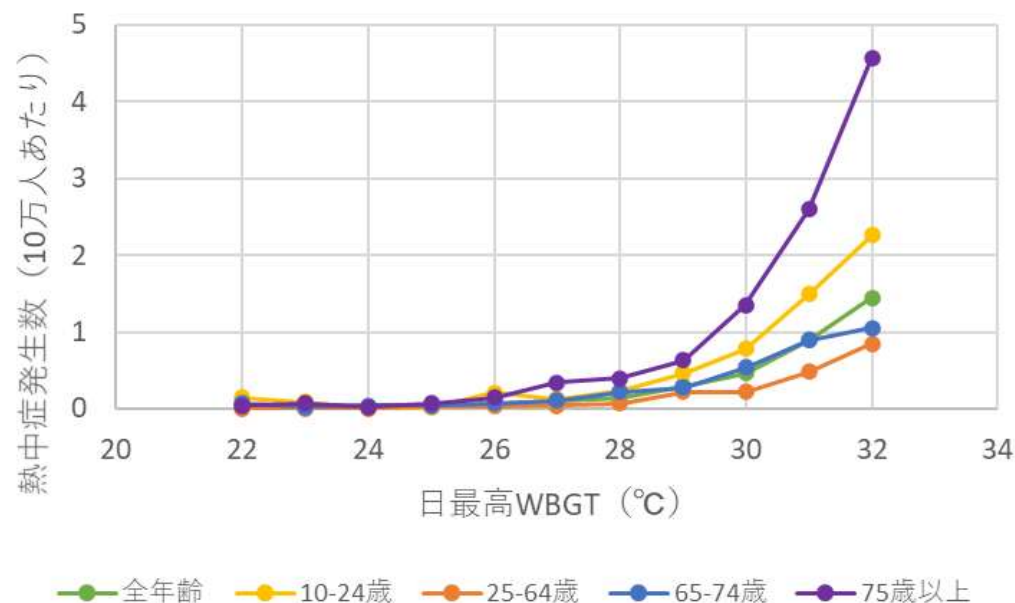


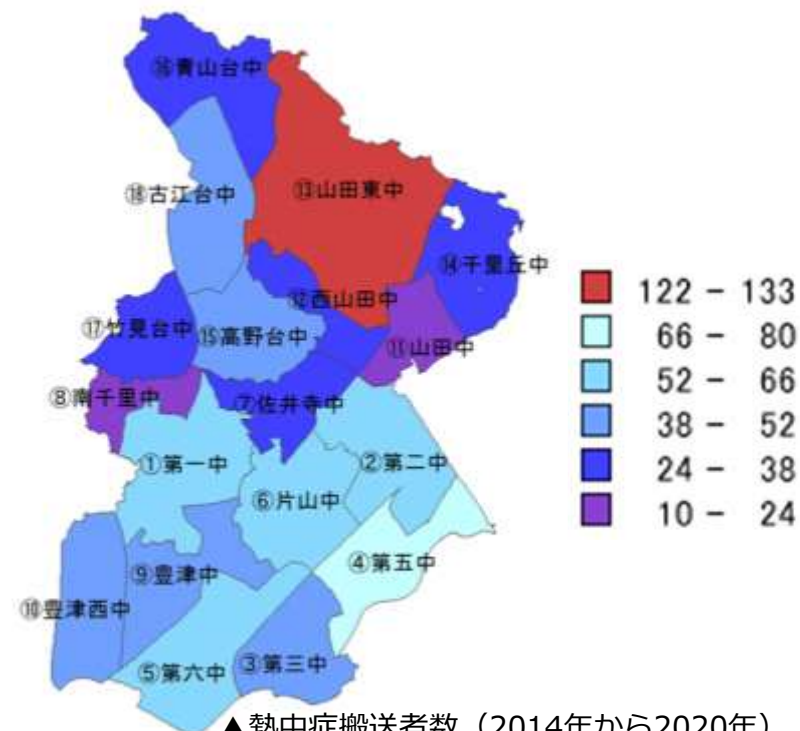
大阪府吹田市 熱中症救急搬送者数のデータを用いた中学校区別の分析

- 熱中症救急搬送者数のデータを用いて中学校区別の分析をし、熱中症の危険性が高い年齢層や場所を把握
- WBGTとの関係や地域分布を地図化するなど他のデータと組み合わせた分析を実施



▲年齢層別・日最高暑さ指数（WBGT）別の熱中症発生数

- ・日最高WBGT30を境に熱中症発生数が増加しているが、特に後期高齢者の発生数の増加が顕著になっている。次いで10-24歳の若年層が多くなっている（曜日別の分析では、若年層は著しく土日に多く発生している）



▲熱中症搬送者数（2014年から2020年）

- ・スポーツ施設の多い万博記念公園が所在する、山田東中学校区の熱中症発生数が多い傾向

■工夫した点

- ・熱中症の救急搬送者数、地域関係機関のヒアリング結果をもとに高リスク対象を抽出するとともに、地域関係機関などから構成され、地域住民参加型の熱中症対策を協議するための会議体（プラットフォーム）について検討を行いました。
- ・さらに、高リスク集団として抽出された学生、アスリート、高齢者に対する熱中症予防の行動化に向けた効果的な情報提示の方法をプラットフォームにおいて検討しました。プラットフォームにて議論をすることで、問題点を速やかに共有することができ、問題解決に効果的と考えられる対策の抽出にいち早く辿り着くことができました。